# 心の健康委員会報告

# 令和6年度 心の健康委員会事業概要

# 第1回 心の健康委員会

日時:令和6年6月12日(水)

場所: OKB ふれあい会館 第1棟 405 会議室

内容:本年度の活動内容について

学校等において抱いている困り感についての意見交流

#### 1 本年度の活動内容について

#### (1)講演会のこれまでの経緯

令和4年度まで心の健康委員会が開催してきた講演会は、昨年度から、学校保健会主催として現代的な健康課題の解決に向け、学校保健の普及・向上に資する講演会にすることを目的に、他委員会で順に企画運営を行うことになった。令和5年度は心腎疾患対策委員会、令和6年度は口腔衛生委員会、令和7年度は学校環境衛生委員会が担当し、次回本委員会が担当するのは、令和8年度の予定である。

#### (2)令和5年度の活動報告

第・岐阜県の児童生徒は

・岐阜県の児童生徒について(令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題 に関する調査、令和5年度情報モラル調査)

・岐阜県教育委員会の取組について

第2

口

・各校(小学校・中学校・高等学校)の「心の健康」に関わる取組の紹介

・各校(小学校・中学校・高等学校)の取組についての意見交流及び指導・助言

・冊子「岐阜県の学校保健」の原稿作成について

# (3)令和6年度の活動計画

令和5年度の活動を参考に、令和6年度は、第1回の委員会で、心の健康に関する岐阜県の児童生徒の状況や取組に加えて、幼稚園の実践等についても交流し、第2回委員会で、養護教諭の委員から各校の事例について資料提案していただくことを依頼する。第2回の委員会では、小学校、中学校、高等学校の3つの実践事例の紹介を受けてのご意見やご指導をまとめ、冊子「岐阜県の学校保健」に掲載する。

#### 2 学校等において抱いている困り感に関する意見交流

- ・これまで不登校児童生徒は、教室復帰を目指してきた。しかし、一人一人の要因が異なるため、今は、 全員が同じ方向を目指すのではなく、個々の実態に応じて社会との関わりを作ることを大切にしてい る。
- ・一部、自己主張とわがままをはき違えている様子を目にする。子ども達は、どんな時に自分はイライラするのかなど、自分を理解する必要がある。自己理解は、自分を大切にすることにつながる。
- ・学校やフリースクール、病院などに行けない時は、無理に引っ張らず、待つ ことも大切。
- ・幼稚園からのいじめ教育は重要。
- ・自分で大切なことを言えない子が多い。コミュニケーション能力を育成す る必要がある。
- ・SNS の利用についてやスマホのリテラシーについて学ぶことも大切である。



# 第2回 心の健康委員会

日時: 令和6年11月13日(水)

場所:OKB ふれあい会館 第1棟 401会議室

内容:各校の心の健康にかかわる取組についての意見交流及び指導助言

# 1 各校の心の健康にかかわる取組の紹介

# (1)小学校における取組

#### ① 心のポストの設置

担任は学級の児童を一番理解し相談すれば問題を解決してくれる存在である。しかし、その他の職員も児童の力になりたいと思っている。職員室前廊下に設置してある「心のポスト」には、困っていることや悩んでいることを書くと同時に、希望する職員に相談することができる。年度始めに、全校に放送で知らせ、適切な利用を促している。子ども達にとっては、担任以外の職員も相談にのってくれる、見守ってくれるという安心感につながっている。

心のポスト 用紙 編 名前
園っていること・紹んでいることを、書いてください。 <わしく数えてください。
だれに簡素値いてほしいか、Oをつけてください。 設計の発生 投資先生 数部先生 年徒指導の発生 カウンセラーの発生 製資制部の発生 ( ) 発生

# ② 心のアンケート・心理テストとその後の教育相談

年2回の心のアンケートと年1回の心理テストを位置づけ、心のアンケート後、担任の教育相談を行っている。アセスは、事前に管理職が若手職員に研修を行い、アセスの意義や活用の仕方等を研修したうえで、実施している。そして、校内研修日を設け、学級内分布票をもとに学年内で見合い、個別支援につなげている。

#### ③ 職員間の共有

5月に生徒指導事例研で、各学級の児童の特性や行動への対処の仕方や声かけ等、配慮事項について、 写真と併せて共通理解している。児童を知ることで、職員が同じ対応ができ、児童の不安や困り感を抱 えている子への適切な支援につながっている。

#### ④ 学校と家庭との連携

日頃から保護者と連絡を密にとりながら、信頼関係を築くよう 心がけている。保護者の思いに寄り添いながら、子どもにとって 一番よい支援ができるよう、対応している。

# ⑤ SC や SSS (スクールソーシャルサポーター)・教育相談 担当・心の教室相談員との連携

保護者にはSCの教育相談の案内を文書で知らせるとともに、教育相談担当や心の教室相談員とも連携をとり、保護者対応を行っている。心の教室の利用についても、保護者や職員向けに便りを配付し、理解をしてもらっている。

心の	教室に	こつい	7	厳員向に	t		R
1, H09	不要校	の児童が、5	中級復得す	るための心	の休憩場所		
2、場所	西会15	當 階段模		利用省か	ない場合	1旅錠していま	r.
3. 附室時間	〇が例室	物質です。					
出版書(文字の書かあり)	H 01/6	火料器	204	70.00	21130	-	
耕沽・朝の会	PFSI	1378	JACT	JH 7T	13.68	1	
1時問目	0	0			0	1	
2時間目	0	0			0	]	
青空	0	0		-	0		
3時間日 4時間日	0	0	0	0	0		
相対の日 総会・日休み・開発	0	- 0	0	0	0	-	
SIAMA	-		0	0		-	
毎日の会	_	_	0	0		1	
614 PM FE	_		0	0		-	
〇のない時間について	A PERMIT	1901 ± 447	1.4.1	Ombid	LINE TO DEPOS	THE RESERVE THE PERSON	D. THALL TO
ります。 禁しく保護者へ 4. 利用時間 児童の実施によります 心の教室で体験しながら	を まずは まずは かんまずは かんしょう かんまずは かんしょう かんしょ かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょく かんしょく かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ	、学級で进	ごす時間を	増やすたね	に基本的に		利用としたいです。
4. 利用時間 児童の実施によります	を まず は 。 、 少しず つ	、学級で通	ごす時間を	:増やすたA : うな利用の	)に基本的( )仕方が望	こ1日1時間の# Eしいです。学!	利用としたいです。
4. 利用時間 児童の実施によります 心の数室で体節しながら せる児童は、心の数室と 5. お願い	を伝えていた すが、まずは っ、少しずつ こしても極力	1、学級で活 学級へ戻っ  学級へ行け	ごす時間を  ていける」  るよう声を	:増やすたが : うな利用が : かけます。	)に基本的! 0仕方が望: ご協力く!	こ1日1時間のが としいです。学り どさい。	列用としたいです。 吸に少しでも顔をb
4. 利用時間 児童の実態によります 心の数室で体感しながら せる児童は、心の数室と      5. お願い 心の教室を利用する5	を が、まずは の、少しずつ こしても極力	、学級で通 学級へ戻っ  学級へ行け	ごす時間を ていけるよ るよう声を	:増やすたが : うな利用: : かけます。 - 夜は児童!	)に基本的! )仕方が堕: ご協力く! :会話がで:	こ1日1時間のr Eしいです。学i ざさい。 rるよう意識し	利用としたいです。 後に少しでも頭を! て下さい。心の枚?
4. 利用時間 児童の実態によります 心の枚富で体感しながら せる児童は、心の教室と 5. お願い 心の枚富を利用する児 で過ごす時間が長くなお	を が、まずは か、少しずつ こしても極力 にはなるほと	1、学級で通 学級へ戻り 学級へ行け 1任の先生は 7、学級復帰	だす時間を ていけるよ るよう声を :、1日に-	: 増やすたが : うな利用: : かけます。 - 度は児童と : る児童が!	)に基本的( )仕方が堕: ご協力く( ) 会話がで:	こ1日1時間のは Eしいです。学校 ださい。 きるよう意識し まれよう意識し	利用としたいです。 後に少しでも顔を! て下さい。 心の校! きるチャンスを探
4. 利用時間 児童の実施によります。 心の教室で体部しながら せる児童は、心の教室と 5. お願い 心の教室を利用するま で過ごす時間が長くなき り、定開的に児童と聴望	が、まずは っ、少しずつ こしても極力 にはなるほど なする時間を	1、学級で通 学級へ戻り 1学級へ行り (任の先生は (、学級復知 (数けてくた)	だす時間を ていけるよう声を るよう声を 、1日に- が難しくを さい。また	:増やすた8 : うな利用0 : かけます。 - 度は児童と : る児童が9 : 、児童が1	のに基本的 の仕方が望 ご協力く! 会話がで: 会話がで: をいです。!	に1日1時間のは Eしいです。学校 ださい。 するよう意識し おに学級復帰で 切けるようご配	利用としたいです。 後に少しでも頼を! て下さい。 心の数 さるチャンスを採 息ください。
4. 利用時間 児童の実態によります 心の枚富で体感しながら せる児童は、心の教室と 5. お願い 心の枚富を利用する児 で過ごす時間が長くなお	が、まずは っ、少しずつ こしても極力 にはなるほど なする時間を	1、学級で通 学級へ戻り 1学級へ行り (任の先生は (、学級復知 (数けてくた)	だす時間を ていけるよう声を るよう声を 、1日に- が難しくを さい。また	:増やすた8 : うな利用0 : かけます。 - 度は児童と : る児童が9 : 、児童が1	のに基本的 の仕方が望 ご協力く! 会話がで: 会話がで: をいです。!	に1日1時間のは Eしいです。学校 ださい。 するよう意識し おに学級復帰で 切けるようご配	利用としたいです。 後に少しでも頼を! て下さい。 心の数 さるチャンスを採 息ください。
4、利用時間 児童の実際によります 心の軟塞で休憩しながら かる児童は、心の軟塞を 5、お願い 心の軟塞を利用する手 り、定制的に児童と問想 心の軟塞を利用する手 別級促爆者の大工業の 別数などの実定に、一番数位	任まていた が、まずずつ 、少し種が、こしても極力 としても極力 となる時間 にはなる時間 にはなる時間 にいたこと と変かいる にと を の の にしても の に に に な に に に に に に に に に に に に に に に	、学級で近い 学級へ行け 学級へ行け 任の先生は無 た、数けては、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ごす時間を でいけるよう声を 、1日にくな が難しまたと には 利用するこ	・増やすたが ・ うな利用が ・ かけます。 ・ 夜は児童が ・ 、 児童が ・ 、 兄童が ・ こ、 兄童が ・ こ、 兄童な と と を伝ぶ	のに基本的: の仕方が望: 会話がで: 会話がで: のいです。: を取に位置を	に1日1時間のは Eしいです。学校 ださい。 するよう意識し おに学級復帰で 切けるようご配	利用としたいです。 後に少しでも頼を! て下さい。 心の数 さるチャンスを採 息ください。
4、利用特徴 児童の実際によります。 心の疾薬で体制しながな さる児童は、心の教室を利用するが 、満別的に関連と利用するが 別能の集まれて支表の 利能の集まれて支表の が他の発生を利用するが 別能の集まれて支表の が他の分割に、(1)情報の が会えた。(1)情報の が会えた。(1)情報の が会えた。(1)情報の が会えた。(1)情報の が会えた。(1)情報の が会えた。(1)情報の が会えた。(1)情報の が会えた。(1)情報の が会えた。(1)情報の が会えた。(1)情報の が会えた。(1)情報の (1	伝えていた。 なか、全してはなる時間は ない。として要なな時間があるは関係の がなる時間が、 がなる時間が、 がなる時間が、 がなる時間が、 がなる時間が、 がなる時間が、 がなる時間が、 がなる時間が、 がなる時間が、 がなる時間が、 がなる時間が、 がなる時間が、 がなる時間が、 がなるがまたるとしていた。	は、学級ででは 学級ででは 学級へ行け は に、一般 が は で が が が が が が が が が り に 、 数 り た り た り た り た り た り た り た り る り る り る	ごす時間を でいよう声を 、1 目にくまたと がおさきには、 があることに があるとに があると がる があると があると があると があると があると があると があると があると がると がると がる がる がる がる がる がる がる がる がる がる	増やすたx は で で で で で で で で で で で で で	のに基本的の に基本的の ご協力く! 会話がで: 会話がで: (を時間外! で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	に1日1時間のは Eしいです。学 ささい。 きるよう意識し、 きに学級復帰で 対けるよう。 対応にご協力を:	利用としたいです。 後に少しでも類をと て下さい。 心の数 さるチャンスを探 息ください。 お類いします。
4、利用時間 児童の実際によります 心の軟塞で休憩しながら かる児童は、心の軟塞を 5、お願い 心の軟塞を利用する手 り、定制的に児童と問想 心の軟塞を利用する手 別級促爆者の大工業の 別数などの実定に、一番数位	伝えていた。 なか、全し様なな時期が、おはときのとなる時間が、 を見ばなる時間が、 を見ばなる時間が、 を見ばなる時間が、 を見ばなる時間が、 をしたのできない。 をしたのできない。	は、学級ででは 学級ででは 学級ででは 学級へ行け 性の先生は がなけて、 で数けては のの数量を でいるの数量を でいるの数量を でいるの数量を でいるの数量を でいるの数量を でいるの数量を でいるの数	ごす時間る ではいまう ではまう には がおきまい には 利用すごと で ののの ののの ののの ののの のののの のののの のののののの	増やすたが うな利用が かけます。 一度は児童と な兄児童が があれば を相な とを相談 であれば なれば なれば なれば なれば なれば なれば なれば な	に基本的 仕方が建 ご協力く! 会話がで: 会話がでは 級に位面外! では、 ます。 では、 まず、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	に1日1時間の学 としいです。 ささい。 さるよう意味というない。 さるよう意味を けるようで記 りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 と りない。 し りない。 し りない。 し りない。 し りない。 し りない。 し り し り し し し し し し し し し し し し し し し	利用としたいです。 他に少しでも顔を! で下さい。 心の軟 をるチャンスを探 多ください。 が随いします。 でさい。
4. 利用時間  ・ 児童の実際によります。 ・ のの数で体部しなが、 ・ ものを変とがある。 ・ ものを変とが用する。 ・ のの数でと明ます。 ・ のの数では、 ・ のの数でと明ます。 ・ のの数でと明ます。 ・ のの数でと明ます。 ・ のの数では、 ・ ののでは、 ・ ののでは	伝えていた。 なか、全し様なな時期が、おはときのとなる時間が、 を見ばなる時間が、 を見ばなる時間が、 を見ばなる時間が、 を見ばなる時間が、 をしたのできない。 をしたのできない。	は、学級ででは 学級ででは 学級ででは 学級へ行け 性の先生は がなけて、 で数けては のの数量を でいるの数量を でいるの数量を でいるの数量を でいるの数量を でいるの数量を でいるの数量を でいるの数	ごす時間る ではいまう ではまう には がおきまい には 利用すごと で ののの ののの ののの ののの のののの のののの のののののの	増やすたが うな利用が かけます。 一度は児童と な兄児童が があれば を相な とを相談 であれば なれば なれば なれば なれば なれば なれば なれば な	に基本的 仕方が建 ご協力く! 会話がで: 会話がでは 級に位面外! では、 ます。 では、 まず、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	に1日1時間の学 としいです。 ささい。 さるよう意味というない。 さるよう意味を けるようで記 りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 は りない。 と りない。 し りない。 し りない。 し りない。 し りない。 し りない。 し り し り し し し し し し し し し し し し し し し	利用としたいです。 他に少しでも顔を! で下さい。 心の軟 をるチャンスを探 多ください。 が随いします。 でさい。
4、利用時間 児童の実際によります 心の整定や特別しながら さる児童は、心の教室と のの教室を利用する引 のの教室を利用する引 別能収集場のて文章の 自然を発生しています。 企業を利用するま としています。 発生が などしています。 発生が などしています。 発生が のかな を のの教室を利用する。 のの教室を利用する。 のの教室を利用する。 のの教室を利用する。 のの教室を利用する。 のの教室を利用する。 のの教室を利用する。 のの教室を利用する。 のの教室を利用する。 のの教室を利用する。 のの教室を利用する。 のの教室を利用する。 のの教室を ののな のの教室を ののな ののな ののな ののな ののな ののな ののな のの	佐えていた。 が、まずずた、 をしても極力、 をしてものがいるは関係で、 をしてものがなる時間であった。 のではなるのでは、 のでは、	は、学級で近い 学級へ行け 任の先生は遅くた。 を持ては、変けては、変けない。 変しいの数なことも ののななことも ののななと ののなななと ののななと ののなななと ののななななななと ののなななななななななな	ごす時間の でするよう声を につるよう声がささまい がささまなと に利用でご載をなりま	増やすたが はな利用す。 一度は児童が がのまたがあれば とを相談し でもいる。 では、 でもいる。 でもいる。 では、 でもいる。 では、 でもいる。 では、 でもいる。 でもいる。 では、 でもいる。 でもい。 でもいる。 でもいる。 でもいる。 でもい。 でもい。 でもい。 でもいる。 でもい。 でもいる。 でもい。 でもい。 でもい。 でもいる。 でもいる。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもいる。 でもいる。 でもいる。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 をもい。 でもい。 をも、 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 をもい。 を	のに基本的: 仕方が受けないでは 会話ができないです。 会話ができないでは 一般に位置外: では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	に1日1時間の中 としいです。学校 できない。 するよう意味に ではるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは なった。	利用としたいです。 成に少しても勝を て下さい。心の軟落 まるチャンスを探 なださい。 い意とします。 ださい。 はしません。
4. 利用時間  ・ 児童の実際によります。 ・ のの数で体部しなが、 ・ ものを変とがある。 ・ ものを変とが用する。 ・ のの数でと明ます。 ・ のの数では、 ・ のの数でと明ます。 ・ のの数でと明ます。 ・ のの数でと明ます。 ・ のの数では、 ・ ののでは、 ・ ののでは	伝えていた (伝えていた まずず (伝えていた ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	・ 学級でデッ学級へ行け 住在の先生は帰んでデッ学級へ行け は任めた生は帰んできる。 変光生・現場を写った。 では、実現を写った。 では、現場を写った。 を持ちないできる。 をもないできる。 をもないでをもなでをもなできる。 をもなできる。 をもななできる。 をもななでをもなでをもなでをもなでをもなでをもなでをもなでをもな	ごす時間のようでは、がきました。 、がきまなという。 には、対面ののでは、 がきまなという。 には、対面ののででする。 に対し、 には、対面ののできまなという。 はは、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面のできなという。 は、対面のできなというなというなというなというなというなというなというなというなというなという	増やすたが は実生が対す。 一度は実生が対す。 でもおりましたがあれば多い。 ではます。 でもはます。 でもしてはます。 でもなってもない。 ではます。 でもないでする。	のに基本的: 仕方が受けないでは 会話ができないです。 会話ができないでは 一般に位置外: では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	に1日1時間の中 としいです。学校 できない。 するよう意味に ではるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは なった。	利用としたいです。 成に少しても勝を て下さい。心の軟落 まるチャンスを探 なださい。 い意とします。 ださい。 はしません。
4. 利用時間 児童の実際によります。 心の整定や特別しながか もの変ない。 ものを変を利用する。 一ので変を利用する。 ので変を利用する。 のになるを利用する。 和性の失乱に、①音数で としています。 基本的には、自分の 6. 利用にあたって ・利用にあたる ・利用にあたる ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	伝えていた (伝えていた まずず (伝えていた ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	・ 学級でデッ学級へ行け 住在の先生は帰んでデッ学級へ行け は任めた生は帰んできる。 変光生・現場を写った。 では、実現を写った。 では、現場を写った。 を持ちないできる。 をもないできる。 をもないでをもなでをもなできる。 をもなできる。 をもななできる。 をもななでをもなでをもなでをもなでをもなでをもなでをもなでをもな	ごす時間のようでは、がきました。 、がきまなという。 には、対面ののでは、 がきまなという。 には、対面ののででする。 に対し、 には、対面ののできまなという。 はは、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面ののできまなという。 は、対面のできなという。 は、対面のできなというなというなというなというなというなというなというなというなというなという	増やすたが は実生が対す。 一度は実生が対す。 でもおりましたがあれば多い。 ではます。 でもはます。 でもしてはます。 でもなってもない。 ではます。 でもないでする。	のに基本的: 仕方が受けないでは 会話ができないです。 会話ができないでは 一般に位置外: では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	に1日1時間の中 としいです。学校 できない。 するよう意味に ではるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは ではなるようでは なった。	利用としたいです。 成に少しても勝を て下さい。心の軟落 まるチャンスを探 なださい。 い意とします。 ださい。 はしません。
4、利用時間 児童の実際によります。 心の放客で体制しながら もの変なで体制しながら もの変な、のの数文 ものでは、この数文 ものでは、この数文 ものでは、この数文 のの数なを利用する。 和性の交換に、②音数で には、は、自分の も、利用であたって まずは、アルモ・数字 は、対して、まずは、アルモ・数字 は、アルモ・な は、アルモ・数字 は、アルモ・数字 は、アルモ・数字 は、アルモ・数字 は、アルモ・数字 は、アルモ・数字 は、アルモ・数字 は、アルモ・数字 は、アルモ・数字 は、アルモ・数字 は、アルモ・数字 は、アルモ・数字 は、アルモ・な は 、アルモ・な は 、アルモ・な	佐えていた。 ない、ましない。 を関係しているはなる時間は、 ないのでは、 を記した。 ないのでは、 ないの	(、学級でデッ学級でデッ学級でデッ学級でデッ学級でデッ学級でデッ学級でデッ学級では、2000年で学級では、2000年でデッタをである。 保護者をでいる 日本 あんしん イン・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー	ごすいけった。 がかい時間のあるし、 があい時はは用述が登れるしてもたい。 はは用述が登れるしてもたい。 ないしてもたい。 ないしてもたい。 ないしてもたい。 ないしてもたい。 ないしてもたい。 ないしてもたい。 ないことがあります。 ないことがないことがあります。 ないことがないことがないとがない。 ないことがないとがないとがないとがないとがないとがないとがないとがないとがないとがない	増やすたか は大きな付ます。 後は児児童は別 でも一度は児児童はが でも一度は児児童はが でも一度は児児童はが でも一度は別 でも一度は でも一度に でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、	のに基本的語 がでは 会践がで、 会談がでは 会談がでは では では では では では では でする でする でする でする でする でする でする でする	に1日1時間の としいです。学 かるよう原境分 がおよう原境分 がおよう原境分 がおるよう原境分 がおるよう原境分 がおるよう原境分 がある。 は一発成分 がある。 はない はない はない はない はない はない はない はない	利用としたいです。 製に少しても顕を とでする。 のの数 をものチャンスを探 なださい。 ださい。 はしません。 や使い方などを見
4. 判断的地 児童の実際によります 心の保証で特別しながら ちまり返生は、心のを変を利用する引 の。ごさ時間が残くなすり、 の場合でを持続して大きない の、定義のにが発されて大きない が自然の実際をおいて大きない としています。 よ事的には、これでは、 よ事的には、大事をよって まずは、アルル・の変 を、予解にあたって まずは、アルル・の変 を、予解にあたって まずは、アルル・の変 を、予解にあたって まずは、アルル・の変 を、の変者に伝え、どの	在ませいた。 ない、ましてがいるほどではつかいる。 というでもしている。 というでもののでは、 というではなる時間には、 というできるでは、 を対している。 というできるでは、 を対している。 というできるでは、 を対している。 というできるでは、 を対している。 というできるでは、 を対している。 というできるでは、 を対している。 というできるでは、 を対している。 というできるでは、 を対している。 というできるでは、 にいる。 というできるでは、 にいる。 というできるでは、 にいる。 というできるでは、 にいる。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ごすらいます。 でではいます。 「おいい時には利のの習いとなった。」 にくまなといった。 にはおいまなない。 にくまなとなった。 では、まなどいった。 では、まなどいった。 では、まない。 では、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 を	とを根状での様と、 を担います。 ととでは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 を	には基本的では、 はない、 はな、 はない、 はない、 はない、 はない、 はない、 はない、 はない、 はない、 はない、 は	こ1日1時間の まとしいです。学材 ささい。 するよう環境で だけるようでは でするようである。 だけるように に なを 変え 変素の 影響を 数えること なを 変素の 影響を 変素の 影響を 変素の 影響を 変素の 影響を 変素を 変素を 変素を 変素を 変素を 変素を 変素を 変素	利用としたいです。 関に少しても類を で下さい。心の数 なるを をとなった。 か感いします。 せさい。 さしません。 か数い方などを児 があい方などを児

#### (2)中学校における取組

#### ① 教育相談の充実

ア:「心のアンケート」「生活アンケート」調査の実施

毎月、全校一斉にアンケートを実施する。アンケート実施後すぐに、担任→学年主任→管理職が内容を把握し、内容に応じて二者懇談等を行い、全職員で早期対応に努める。また、生徒一人一人に教育相談を行うことで、本人、まわりの仲間の様子の変化をとらえるようにする。生徒の心の変容を記録に残して、継続した見届けを行っている。

#### イ:積極的な教育相談

気になる生徒への声かけはもちろんのこと、生徒の頑張りや 仲間への思いやりなどが見られたとき、その場で声をかけて認 め励ますことを大切にしている。

要支援生徒には、全職員で温かい声かけができるようにする。

また、スクールカウンセラーの相談時間を公開し、気軽にカウンセリングができる体制を整えている。

#### ウ:相談体制の確立

生徒の悩みが表出した場合は、担任⇒学年主任⇒生徒指導主事・教育相談主任→養護教諭、ほほえみ相談員、スクールカウンセラーと情報を共有し、生徒の悩みに応える。相談内容は記録に残し、管理職に報告する。また、記録は保管し、進学・進級した場合にも配慮できるようにしている。

### ② 生徒指導交流

生徒交流会を毎週の打ち合わせに位置付け、生徒の情報を共有している。

教科の授業や部活動、所属学年で関わる生徒の様子を職員間で共有することで、生徒に意図的に声をかけたり、様子を観察したりして、積極的な教育相談の充実といじめの早期発見に努めている。

#### ③ スクールカウンセラー、スクール相談員について

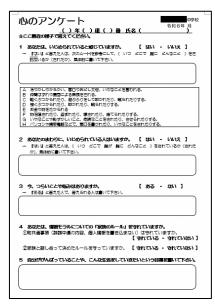
- スクールカウンセラー:年21回来校(1回6時間)
- スクール相談員:年30回来校(1回6時間)

希望があった生徒、保護者に対して、教育相談コーディネーターが日程調整し、面談を実施している。"心の専門家、教師ではない立場の人と話をすることができる"ということで安心し面談希望をする生徒もいる。スクールカウンセラーはカウンセリングの様子を相談記録に記載し、教育相談コーディネーター、担任、学年主任、管理職と共有している。

スクール相談員は、学校内を巡回して各教室の生徒の様子を観察し、必要があれば個別に声をかけて予防的な教育相談を行っている。記録を記載して教育相談コーディネーターや担任、学年主任、管理職と共有している。

#### ④ ほほえみ相談室

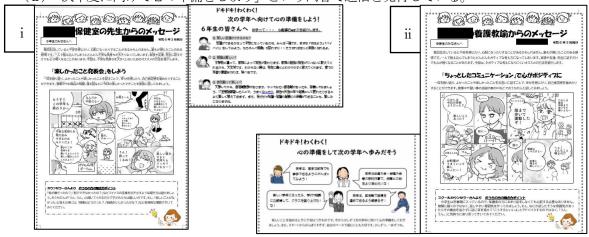
長期欠席者が学校に足を向けるための第一歩として、また、自分の学級にもどるステップとして、ほほえみ相談員を中心に対応している。相談室での過ごし方や登校時間など、担任や相談員と面談を重ねて約束を決めてから通い始める。一人で学習や読書する時間、相談室の仲間や相談員とゲームや話しで関わりを持つ時間、教室の授業に参加する時間と、一人一人に合わせた時間割り設定で、相談室の生徒が安心して過ごせるようにしている。



# ⑤ 養護教諭部会による郡内統一通信の発行

郡内統一で定期的に通信を発行しており、レジリエンス(心の回復力)に関係した内容を取り上げている。年度末には、中学校への進学(i)や進級・クラス替えが近づき不安定になる生徒を想定して

(ii)「次年度に向けて心の準備をしよう」という内容で通信を発行している。



## (3)高等学校における取組

#### ① 定期的なアンケートの実施

ア:心のアンケート 年4回 (5、9,11,2月)

イ:いじめに関するアンケート 年3回 (6、10、1月)

- ・1回は記名、2回は無記名で回答
- ・すぐーる (Forms 形式) で全校生徒に実施
- ・回答後、すぐに集計し生徒指導主事が確認。SC を希望する生徒はすぐに教育相談担当者へ連絡する。各担任・学年主任へ結果を伝え、学年会で情報共有し、対応を検討する。生徒への聞き取り、SC カウンセリングの日程調整等。
- ・いじめ事案(疑いを含む)がある場合は、管理職と相談し、生徒指導委員会やいじめ防止対策 委員会等の組織で指導方針等を協議・決定し、迅速に対応する。
- ・担任から学年主任への聞き取りの報告、学年毎にまとめたものを生徒指導主事へ報告し、管理 職・県へ報告。
- ・アンケート集計結果等については、職員会議や朝会等で情報共有を行う。

ウ:学校評価アンケート

生徒、保護者からの意見を真摯に受け止め、対応を検討する。

#### ② SC について

ア:年に19回(38時間) 内容:生徒対応、職員研修

イ:配置SCによる「SOSの出し方に関する教育」

・7月5日に本校配置 SC から全生徒へオンラインで講話

#### ③ 教育相談週間について

年に2回(春季、秋季)に約1週間、担任と生徒の二者懇談を実施。

<ねらい> 生徒理解を深めるとともに、生徒の新しい決意ややる気を後押しし、応援することで 生徒に希望や自信を持たせる。

生徒との信頼関係を深める。

生徒の抱えるつまずきや悩みを早期発見する一助とする。

#### ④ 心理検査の実施

・4月18日(始業後2週間目)に実施。その後、心理検査機関の講師を招いて、主にクラス担任 へ結果説明を実施。シグマ検査結果の見方と気になる生徒に対する個別な助言をいただく。今 後のかかわりの中で大切にしたいことや声かけの工夫等を学ぶ機会となる。

# ⑤ ほっとプレイス

・令和6年度から校内に設置。スクール相談員が週3日1日3時間来校。 内容:生徒支援、校内巡視

# ⑥ 生徒・職員講演会

・令和6年12月3日(火) 「スリンプル・プログラム」

講師:「かかわりプログラム Slimple」代表 曽山和彦 氏

いじめや不登校の要因の一つとして、生徒の人間関係づくりやコミュニケーション能力の未熟さが考えられる。そこでかかわりの力を育むために、SST(ソーシャルスキルトレーニング)と SGE (構成的グループエンカウンター)で構成された「スリンプル・プログラム」を活用する。

## ⑦ 職員研修

- ・令和6年11月20日(水) 本校SCによる研修「生徒指導とその支援」
- ・令和6年12月3日(火) 「スリンプル・プログラム」講演後の研修

### ⑧ いじめ防止対策委員会 年2回(6月、2月)

・外部委員: 顧問弁護士、SC、地域代表、保護者代表

· 学校組織: 校長、教頭、教務主任、生徒指導部長、生徒指導部係、教育相談係、各学年主任、 養護教諭

#### ⑨ 保健室対応・教育相談室対応

- ・体調不良を訴えてくる生徒の中には、教室で過ごすことに対して不安や緊張感を持っていることがある。来室記録の中に、「食欲が落ちた」「イライラしたり、集中できない」「緊張や不安感がある」「悩み・ストレスがある」など、当てはまるものに○を打つ項目があり、そこに○を打った生徒に問診時に確認。本人が話すことができれば、傾聴。自分から担任へ相談できるか確認。相談できないと答えた場合は、担任と共有してよいか等の許可を得て、担任と教育相談と共有しながら対応をしている。
- ・教育相談室へ相談に来た生徒に対して、相談内容をじっくり傾聴。本人の許可を得て担任と共 有し、対応をしている。

# ⑩ 保健だより、教育相談だよりの発行

・心の健康についての情報、生徒が読んで心がほっこりするような内容、SC やスクール相談員が 来校する日程等の情報を提供している。

#### 3 各校の取組についての指導・助言

- ・学校や行政、地域が一体となり、安心できる環境整備を行っていることが素晴らしい。
- ・子ども達に、いかに「生きる力」を育むかが重要。一人一人の健康意識を上げ、命の大切さを学ぶ教育を充実させたい。がん教育を通して、命の教育ができるとよい。
- ・養護教諭は、全ての子の担任である。今後も、子ども達の心の支えとなることを期待したい。